

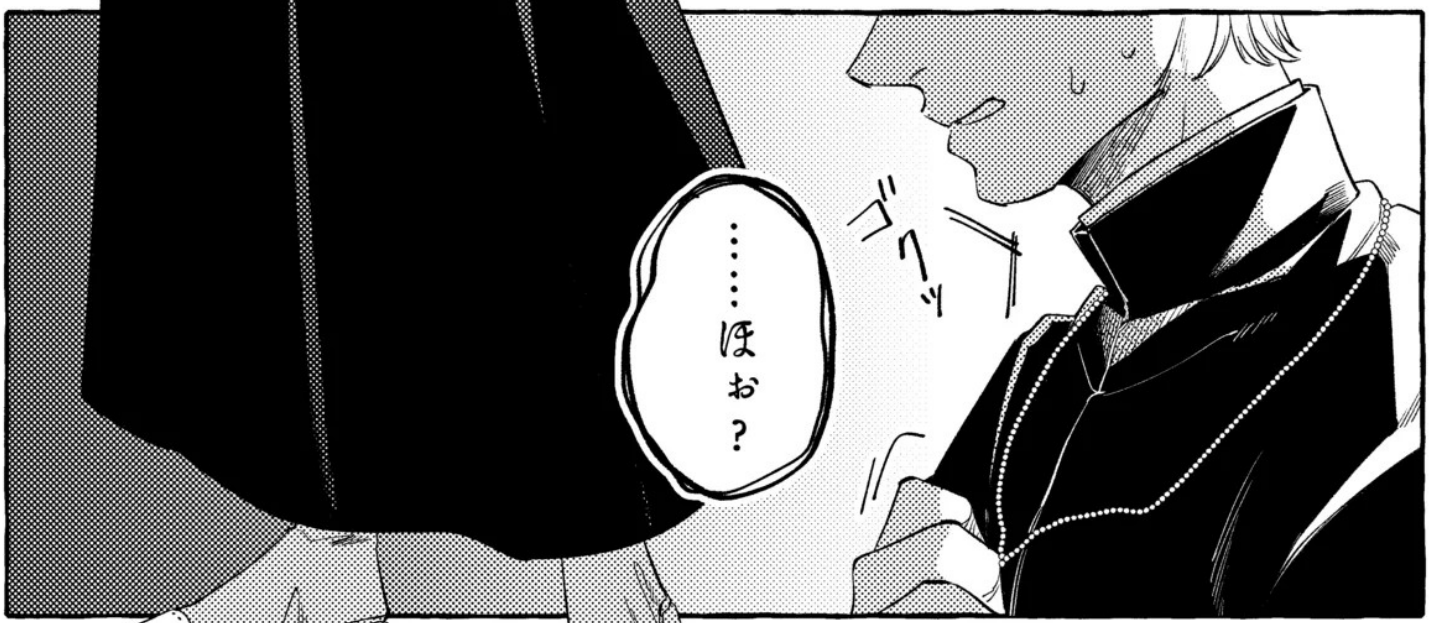
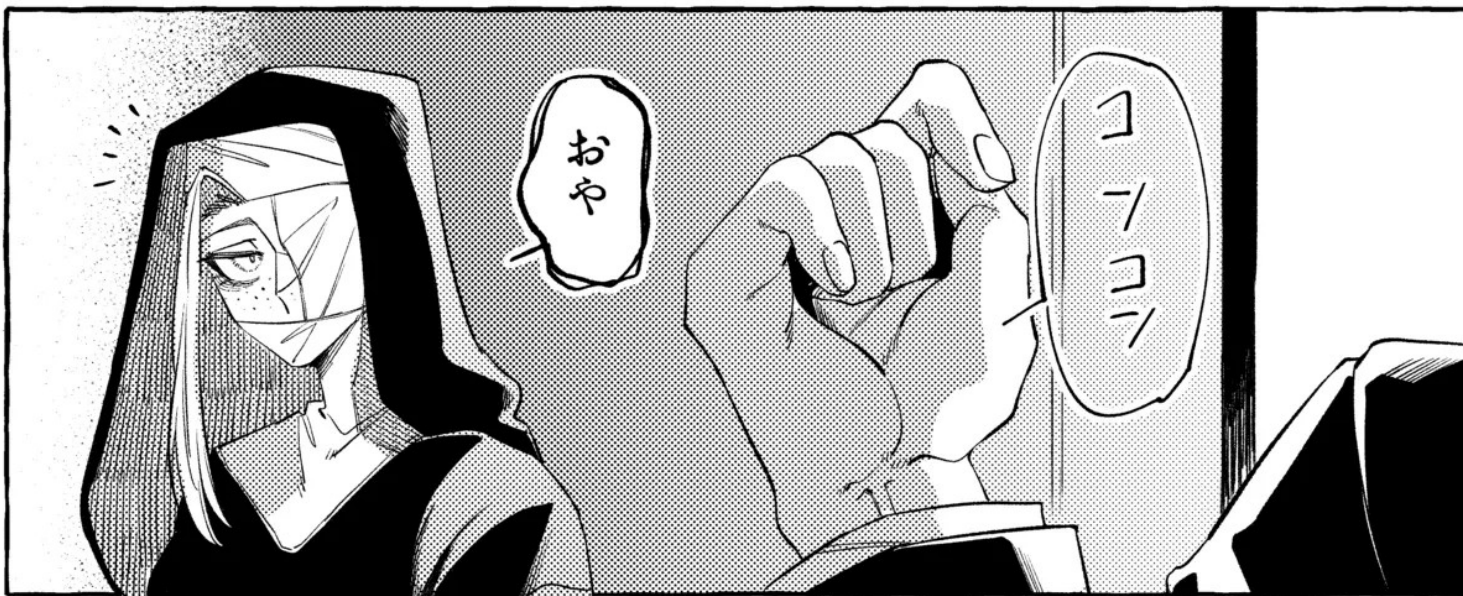
懺悔の時間です。





またどうぞ

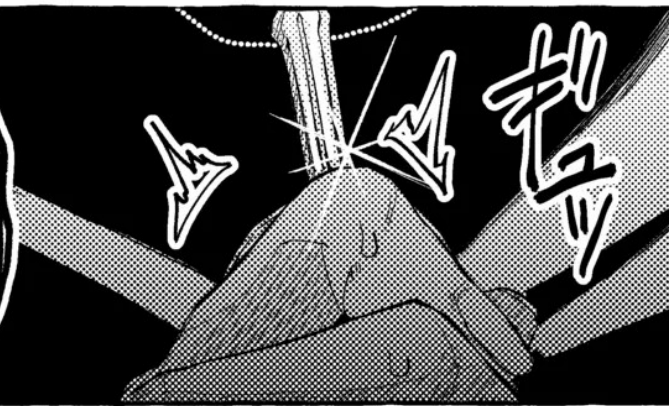






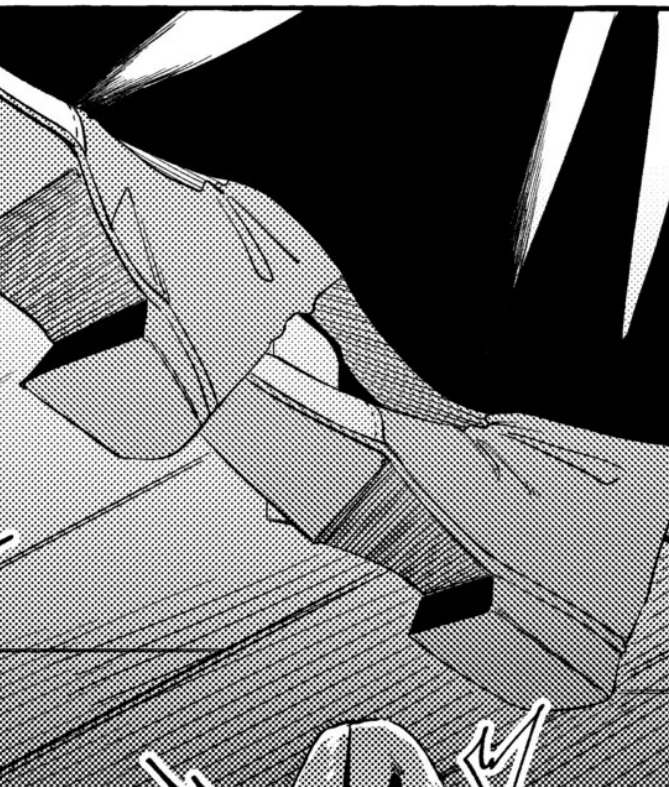
これは  
しつれい。

よもや神父様までもが  
そんな背信者だとは思わなんだ。



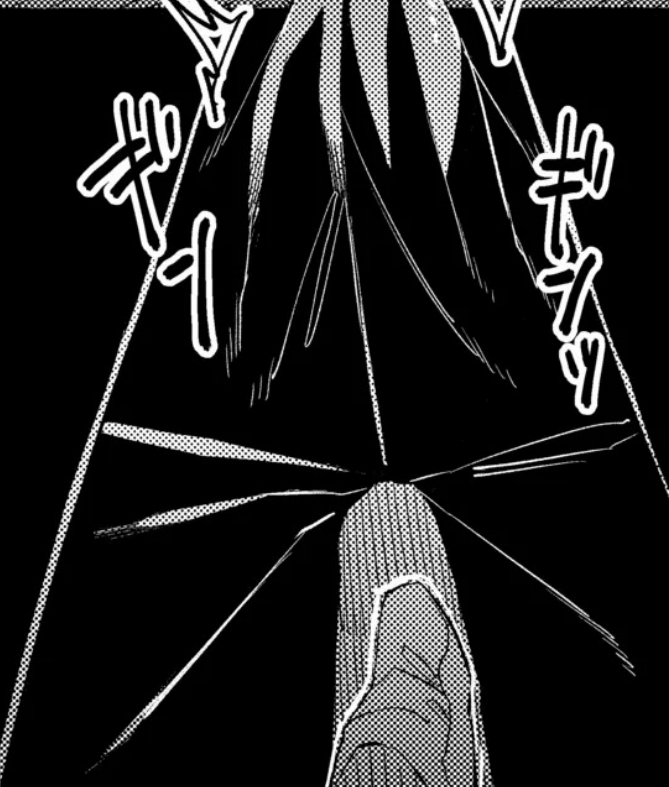
胸のそれは  
お飾りか？

それとも  
そういうのが  
お好みで？



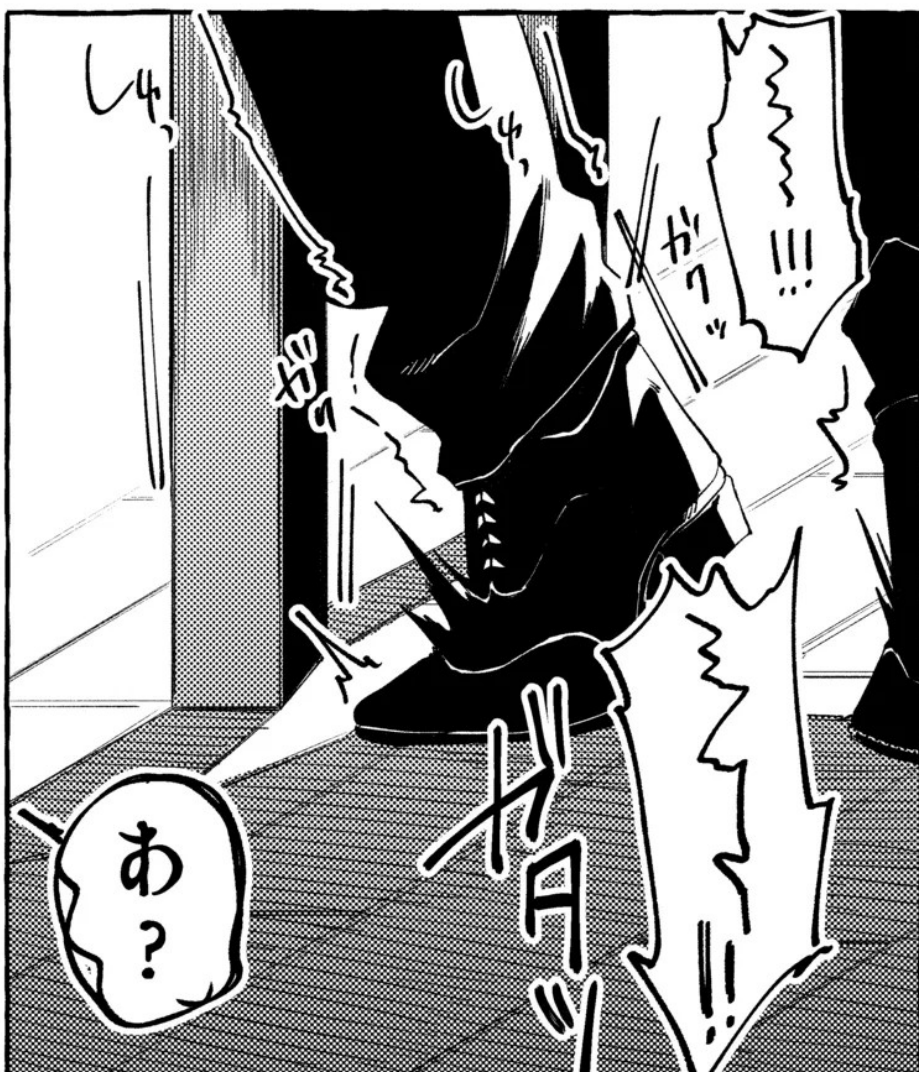
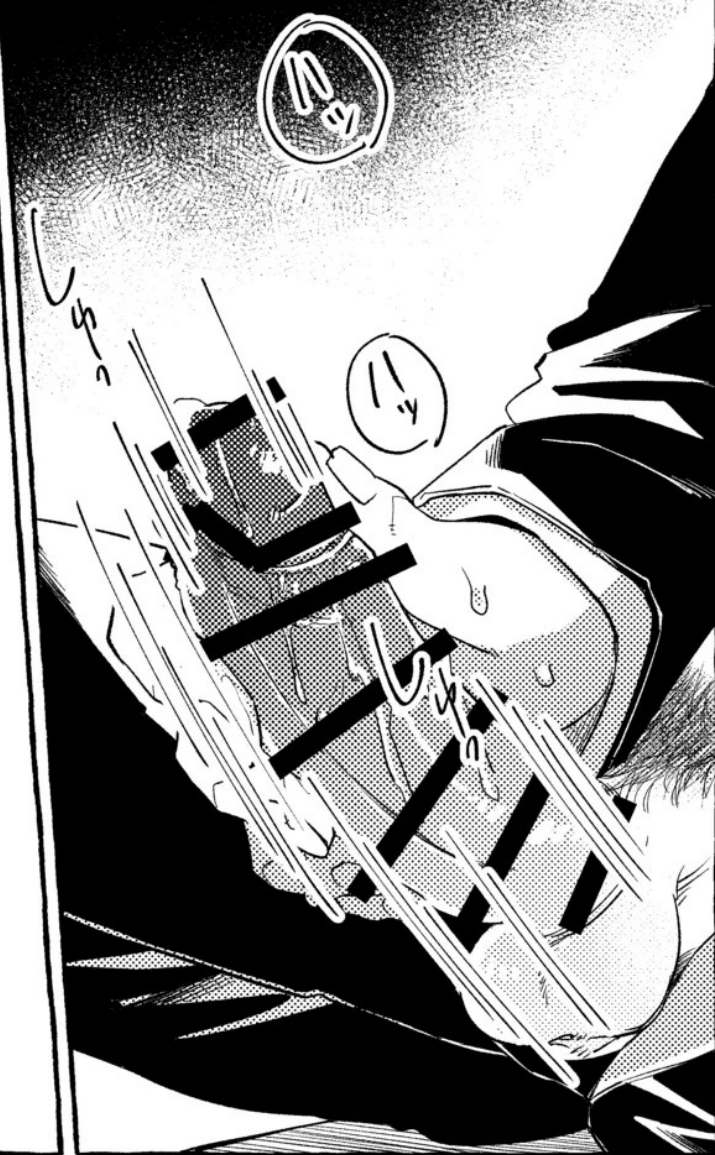
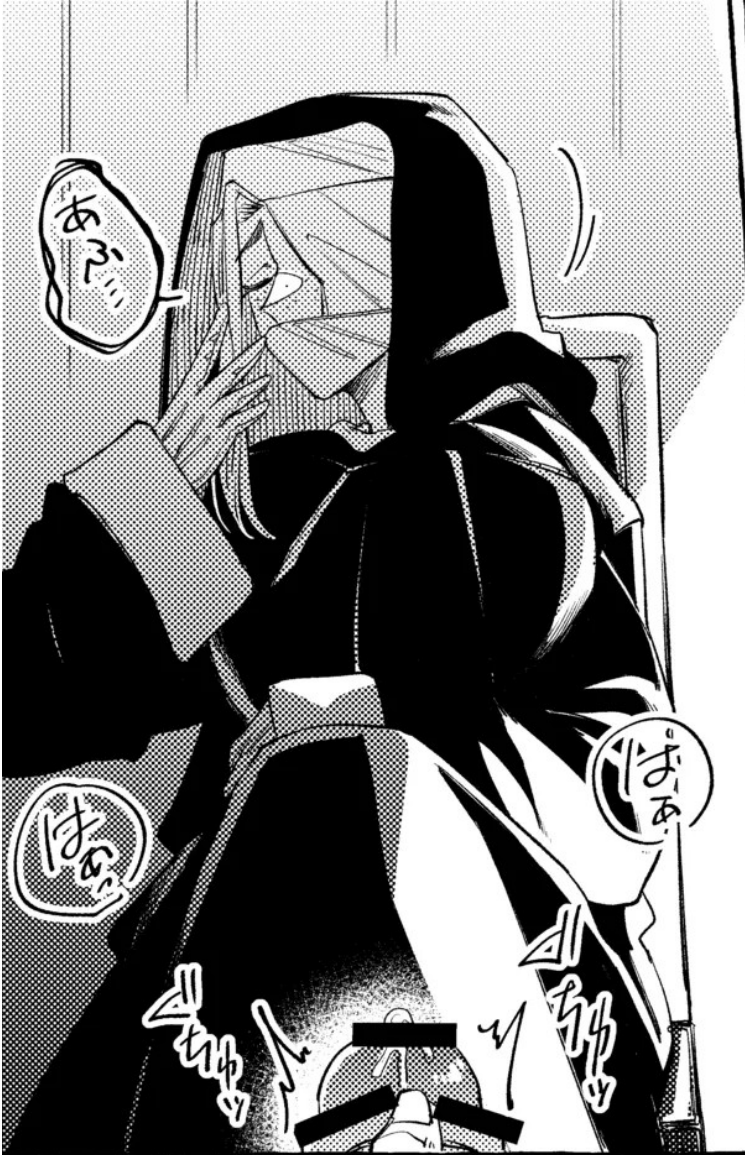
まあいい。

上司の命令ですから  
従いましょう。



ですが私は  
それを見るだけ。

他は何も  
しませんよ。



こちらは一日中  
男の自慰行為を  
見せられ飽き飽き  
しているのに

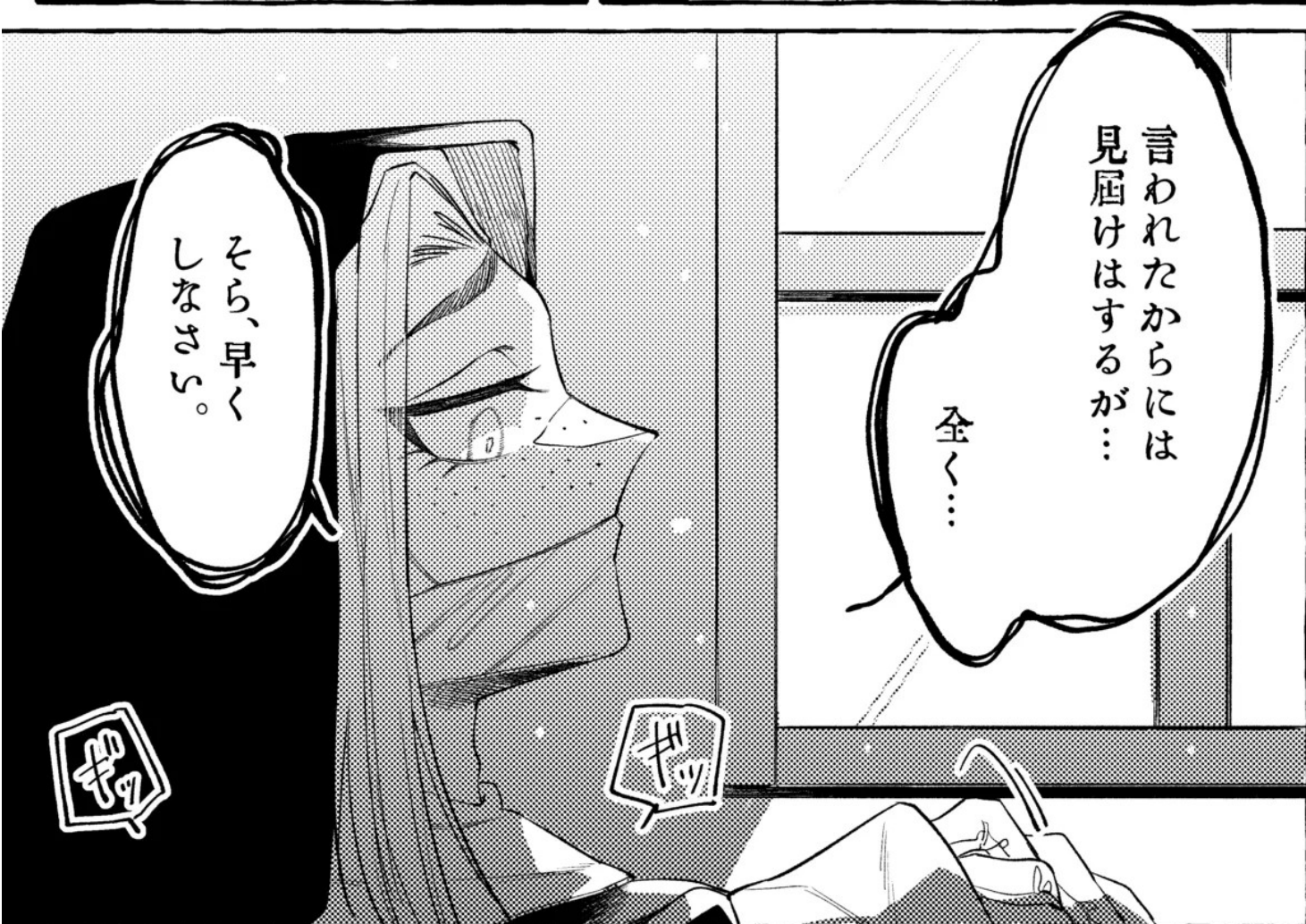
仕事終わりに  
やってきたあけく  
「もつと見ろ」だ？

呆れて  
ものも言えない。

そこまで  
信仰心のない  
方だったとは。

非常に

滑稽。







では

もうよろしい  
でしょう。

早く服を  
洗わないと  
いけませんので。

何です？

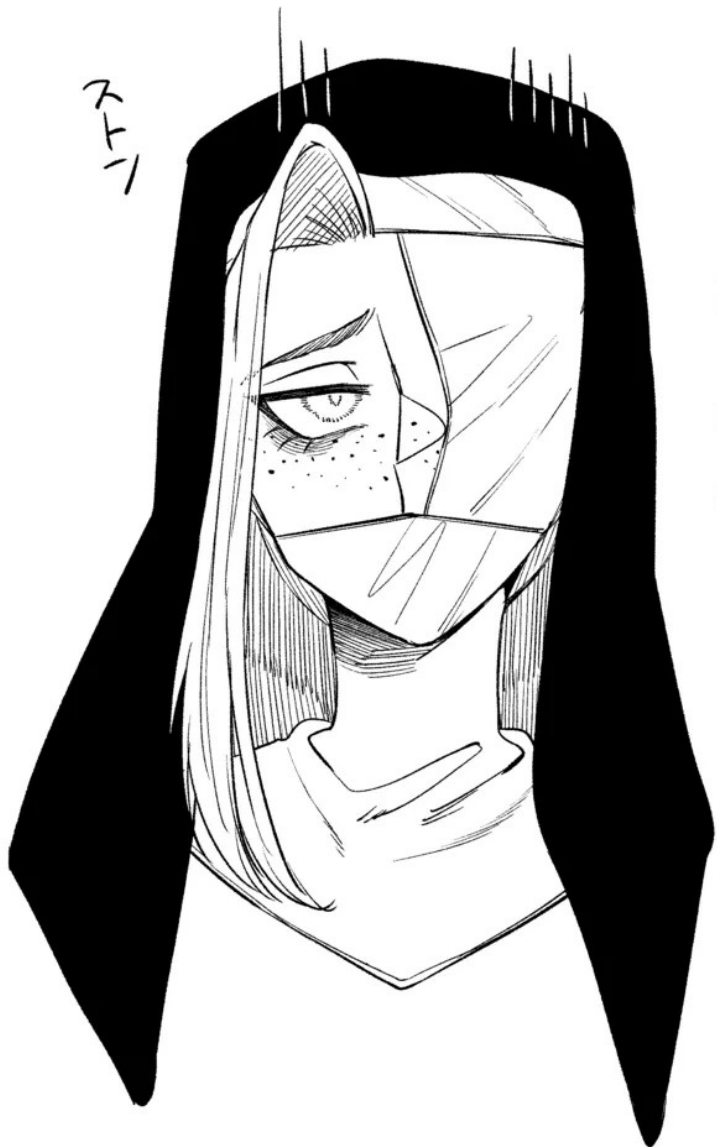
鬱陶しい。

発情されるのは  
勝手だが

私を  
巻き込むのは  
やめて  
いただけますか。

それでは。

ヤミ  
A  
end.



ストフ

上から黒い布



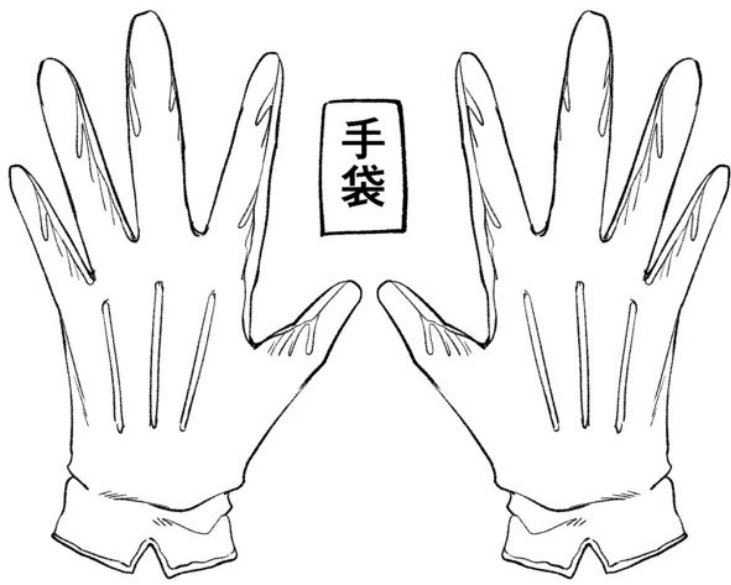
白頭巾

髪の毛も  
後ろでまとめて  
頭巾に入ってる

シスターさんの  
アレコレ



ブーツ



手袋

夏服。

ミスターさんの  
居る所は  
そこまで暑く  
ないのに  
架空の夏服です。

さとう  
づけ。

タイトル  
懺悔の時間です。  
発行者  
SugarToast(砂糖漬け)  
この作品はフィクションです。  
実在の人物・団体とは  
関係ありません  
複製・二次配布等は厳禁です

